

## 日本の B R I C s 向け輸出はどこまで伸びるか？

～ 2015 年には輸出に占める B R I C s 向け割合が 4 割近くに～

2006 年 4 月 2 日 (日)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: [postbrics@yahoo.co.jp](mailto:postbrics@yahoo.co.jp)

～ 要 旨 ～

B R I C s 経済が巨大化した際に、先進諸国に与えるプラスのインパクトとして、先進国から同地域へ向けた輸出が拡大することが挙げられる。B R I C s は人口規模が圧倒的に大きいので、このまま 1 人あたりの所得水準・生活水準が高まっていけば、耐久消費財を中心に国内消費が爆発的に盛り上がる公算が大きい。

また経済発展に伴って、現段階で割安に放置されている B R I C s 各国の為替レートが長期的に上昇傾向を辿ることも間違いない。B R I C s における国内需要の拡大、同地域の為替レートの上昇という条件がそろえば、先進諸国から B R I C s に向けた輸出が大幅に拡大することになる。

日本を例にとって、B R I C s 向けの輸出が将来どのように推移するかをシミュレーションしてみると、為替レートの動きを一定とする限り、G D P ベースの実質輸出の伸びは 2000 年から 2005 年にかけて年平均 + 7.1% で推移した後、2005 年から 2010 年にかけては同 + 5.1%、2010 年から 2015 年にかけては同 + 4.3% と、世界経済の成長テンポの鈍化を受けて徐々に低下していく。

実質輸出の伸びを仕向け地別にみると、米国向けは、2000 年から 2005 年にかけて年平均 + 1.7% で推移した後、2005 年から 2010 年にかけては同 + 2.6%、2010 年から 2015 年にかけては同 + 2.2% となる。欧州向けは 2000 ～ 2005 年実績の年平均 + 3.9% から 2005 ～ 2010 年には同 + 3.5% に鈍化、2010 ～ 2015 年も同程度の伸び (同 + 3.5%) で推移する。B R I C s 向けについては、日本と地理的に近い中国、ロシアを中心に予測期間を通じて高い伸びが期待される。

米国向け輸出のウエイトは 2000 年時点の 29.7% から 2005 年には 22.5%、2010 年には 20.4%、2015 年には 18.5% まで低下する。また、欧州向け輸出のウエイトについても 2000 年の 16.3% から 2005 年には 14.7%、2010 年には 13.9%、2015 年には 13.5% と徐々に低下していく。一方、2000 年時点ではわずか 7.5% に過ぎなかった B R I C s 向け輸出のウエイトは、2005 年に 15.3%、2010 年に 24.6%、そして 2015 年には 38.2% と急速に高まっていく。2010 年時点では、B R I C s 向け輸出のウエイトが米国向け輸出のウエイトをしのぎ、B R I C s が米国にかわって日本にとって最大の輸出先になると見込まれる。さらに上記の結果に、B R I C s の為替レートが経済成長に伴い上昇するという条件を加えて試算を行うと、B R I C s 向け輸出のウエイトは 2005 年に 15.3% となった後、2010 年には 30.3%、2015 年には 56.4% に達する。経済成長に伴って B R I C s 各国の為替レートが増価していけば、今から 10 年先の 2015 年には日本の輸出の過半が B R I C s 向けで占められるということだ。